

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	45		学校名	県立土浦第一高等学校				課程	定時制		学校長名			中澤 齊			
副校長・ 教頭名	副校長 片岡 達郎			教頭 奈良 由紀子							事務室長名		大森 伸一				
教職員数	教諭	6	養護 助教諭	1	常勤 講師	1	非常勤 講師	2	実習教諭、実習講師、 実習助手		0	事務職 員	5	技術職 員等	6	計	25
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科			18	7	21	16	17	8	11	5	67	36	103			

2 目指す学校像

- ・豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、自立し、他者と協働して生きていくために身に付けなければならない力を育てる。
- ・教職員の共通理解の下、生徒一人一人がもつ能力・適性を生かし、社会に貢献し得る人間の育成を目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	多様な生徒が在籍しており、生徒間で学力差や学習意欲に差が見られる。	社会人として身に付けてほしい知識をいかに修得させるか。
特別活動	運動部及び文化部が月・水・金の週 3 日、放課後に活動している。文化祭やクラスマッチ等の行事も豊富である。	個々のコミュニケーション力を育むとともに、生徒会等に活躍の場を多く与えることが必要。
生徒指導	欠席・遅刻の多い生徒がいる。頭髮の指導や、スマホの使用法についても注意されている。	基本的な生活習慣を確立し、規範意識をもって行動できるようにする。
進路指導	生徒の進路意識には大きな差があり、進路希望は多様である。家庭状況が進路選択の障壁になってしまう者もいる。	個に応じた進路指導の推進と、進路情報の提供が必要。
保健室指導	不登校を経験している生徒や、人間関係を上手く築くことのできない生徒が多く、年間の相談回数が多い。	担任や養護教諭を中心に、連携しながら細やかなサポート体制の構築が必要。

別紙様式 1 (高)

働き方改革	全員が複数の校務分掌を担当し、効率的に業務を進めている。会議資料等も、できるだけペーパーレス化を図り、印刷・配布の手間を省いている。	超過勤務時間が 80 時間を超える者はなかったが、学校行事等の見直し、I C Tの活用などにより、更なる効率化が必要。
-------	--	---

4 中期的目標

1 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を目指すために、生徒相互による学習を通して、基礎学力の向上を図る。 2 進路希望の多様化に対応できるよう、個に応じた細やかな指導の充実を図る。 3 基本的生活習慣の確立と個性の伸長を図り、豊かな人間性・社会性を育成する。 4 個別指導を通して生徒理解を深め、適時・適切な指導・助言を行い、細やかな生徒支援を目指す。 5 教師と生徒の信頼関係を深め、心の触れ合う学年・ホームルーム経営を推進する。
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力定着と授業の工夫・改善	- 一人一人の能力の向上を図るため、個に応じた授業を行い、基礎学力の定着に努める。 - 授業において、個々の生徒の学習を支援しながら、知識と技能の着実な習得を図る。 - 全ての教員が学習指導の工夫・改善を図り、分かる授業を実践する。
進路指導の充実	3 修 3 卒希望者へのより積極的な支援に努める。 - 生徒一人一人の希望に沿った細やかな指導を実施し、各生徒の進路実現に努める。 - 進路情報の収集と提供に努め、進路に関するホームルームなどの充実を図る。
基本的生活習慣の確立	- 社会の一員であることを自覚させ、責任ある行動がとれる人間の育成に努める。 - 規範意識の高揚を図るとともに、清潔感のある身だしなみを意識させる。 - 挨拶の励行に努め、好ましい人間関係をつくる能力を身に付けさせる。
個別指導(生徒理解)の充実	- 生徒に対する個々の支援を充実し、細やかな心のケア・学習相談・進路相談を実践する。 - 日常的な関わりを通して、生徒理解を深めるとともに、生徒間及び教員と生徒との望ましい人間関係を構築する。 - キャリア・パスポートの活用を通して、生徒の自己理解を促しながら、きめ細かい指導を行う。
学校情報の積極的な発信	- 学校ホームページを毎月更新し、学校情報を積極的に発信する。 - 中学校訪問等を充実させ、教育活動を積極的に紹介するとともに、地域社会にも定時制教育の理解を求める広報活動を行っていく。
働き方改革の推進	- 会議資料等の紙媒体での配布を控え、デジタルデータで共有するよう努める。 - 業務の見直しと効率化を図るとともに、休暇を取りやすい雰囲気をつくり、働き方改革への意識を高める。 - 在校時間管理システム等の活用により、時間外勤務の縮減を図り、勤務時間の適正化に努める。